

# ニュース 玉手箱



## おいしい料理で楽しくふれあう



**誰**でも参加できる出会いとふれあいの場として「ふれあい食堂」が5月2日（木）と4日（土）に虹のプラザ調理室で開催されました。さまざまな人とふれあいながら、料理作りや食事を楽しんでもらおうと社会福祉協議会が初めて開いたもので、ゴールデンウィーク中にメニューを変えて2回開催されました。

このうち4日は、小学生から高齢者までおよそ20人が参加して、いも煮やポテトサラダなどを手作りし、参加者同士の会話を楽しみながらおいしい料理を味わいました。社会福祉協議会では今後も毎月1回のペースでふれあい食堂を開催していくことにしています。

## 通学路で最新の工事技術体験

**大**石田小学校の通学路になっている町道で工事現場体験会が5月8日（水）に行われ、大石田小学校の児童が最新の情報通信技術を使った建設工事に触れました。

体験会は工事を請け負う㈱一二三建設工業が企画したもので、子どもたちに向けて情報通信技術により機械が現場の状況を判断して作業をしていることや、ドローン（無人航空機）によって空撮が行われていることが説明されました。さらに、子どもたちはゴーグルを使ったVR技術を体験したほか、ドローンを工事現場上空に飛ばした映像がモニターに表示されると、「すごい」などと大きな歓声があがっていました。



## 町内各地で交通安全呼びかけ

**春**の交通安全県民運動が5月10日（金）から19日（日）までの10日間行われました。初日の10日には大石田町、尾花沢市の交通安全推進協議会や交通安全母の会などのメンバー約100名が参加して野川食肉センター駐車場で出発式が行われました。その後参加者は国道347号沿いに約300メートルに連なり、プラカードやのぼりを持って交通安全を呼びかける「交通事故よ、さよなら人波作戦」を実施しました。このほか各地区の交差点などで、小中学生の登校時間に合わせて交通安全の呼びかけが行われました。例年5月は、年間で子どもが関係する交通事故が最も多くなります。人も車も自転車も、交通ルールとマナーを守って事故防止に努めましょう。



## 混生地で住民らによる産卵数調査

**ギ**フチョウとヒメギフチョウの産卵数調査が5月9日（木）に川前地区で行われました。川前地区は全国的に珍しい両種のチョウの混生地となっていて、地区住民で組織する「ギフチョウ・ヒメギフチョウを保護する会」（齋藤忠雄会長）が、地区の数か所で下草刈りを行うなど30年にわたって保護活動を続けています。

産卵数調査は同会が活動の一環として、町教育委員会と合同で毎年この時期に行っているものです。調査の最中にヒメギフチョウが産卵する場面もあり、参加者は卵を踏まないよう慎重に歩きながらチョウが卵を産み付ける葉を1枚1枚めくり、卵の数を記録していました。



## 町をきれいにクリーンアップ大作戦

**ク**リーンアップおおいしだ大作戦（河川清掃）が5月12日（日）の早朝、町民約600人が参加して、最上川や丹生川などの河川敷で行われました。

これは大石田町地区衛生組織連合会が毎年実施しているもので、参加者は川沿いを歩きながらペットボトルや空き缶、ビニールなどの流れ着いたごみを次々に拾い上げていました。中にはタイヤや洗濯機など大型の粗大ごみも見受けられました。ごみの回収には大石田町建設業協会が協力し、およそ1時間の清掃の間に集められたごみの量はボランティア袋400袋、810kgにのぼりました。クリーンアップおおいしだはこのあと年間5回行われる予定です。



## 町民目線の町政を

**平**成31年度町政懇話会が4月19日（金）に役場大会議室で開かれ、町議会議員や各地区の区長、農業委員会委員など約60人が参加して今年度の町政運営について話し合いました。

懇話会では、はじめに庄司町長が「町の活性化や定住対策を着実に進めていきたい」と町政の基本方針を説明し、続いて横山副町長が町の財政状況を、本多教育長が教育方針をそれぞれ説明しました。その後に行われた意見交換では、町の活性化や住みよい環境づくりに向けた活発な意見が交わされていました。

